

製鉄記念室蘭病院 小谷医師ら研究会設立

負担軽い脊椎手術 普及へ

製鉄記念室蘭病院の小谷善久整形外科長が代表世話人を務め、道内の整形外科医らの参加する「北海道MIST(ミスト)研究会」が設立された。患者の負担が少なくて済む、小さな切開で背骨の曲がりなどを治療する手術法の普及を図る。

MISTは、研究会が取り

10月にも初の研究報告会

組む手術法の英語の略称。小谷医師によると、患部を切開し、ボルトを入れて脊椎を矯正する。切開部が数センチと小さ

いため出血が少なく入院期間も短縮され、患者の負担を軽減できるといふ。道内の医療機関でも採用されつつあるが、医師に高度な技術と十分な経験が求められる。研究会をつくり、模型を使った模擬手術など実践的な講習を行い、医師の知識と技術の向上を図る。

小谷医師以外の世話人は市立札幌病院整形外科の奥村潤一郎部長ら3人。初の研究報告会を札幌で10月にも開く。

小谷医師は「高齢化で、背骨の曲がりなどに苦しむお年寄りが増えている。医師の技術を高め、患者の負担を軽減させたい」と話している。



小谷善久医師

(相沢宏)